

# 2019年3月期 決算説明資料

菊水電子工業株式会社  
[www.kikusui.co.jp](http://www.kikusui.co.jp)



大容量スマート交流・直流安定化電源  
PCR-WE/WE2シリーズ

# 目次

会社紹介

P3～

2019年3月期 連結業績概要

P12～

2020年3月期 連結業績予想

P23～

今後の事業戦略

P25～

# 会社紹介

# 会社紹介

## ● 会社概要 (2019年3月末現在)

社名(銘柄コード)	菊水電子工業株式会社(6912)	
設立	1951年(昭和26年)8月8日	
資本金	22億125万円(3月決算)	
発行済株式数	9,900,000株(1単元株数100株)	
事業内容	各種電子計測器・産業用電源装置・ ソフトウェアの設計、製造、販売及び輸出入	
大株主 (自己株式は含まず)	株式会社ケーティーエム	11.03%
	菊水取引先持株会	10.72%
	菊水電子工業従業員持株会	5.35%
	株式会社みずほ銀行	4.37%
	小林寛子	4.21%
	日本生命保険相互会社	3.65%
	ケル株式会社	2.67%
	株式会社三菱UFJ銀行	2.60%
	橋本幸雄	2.28%
	三井住友信託銀行株式会社	2.22%
代表者	代表取締役社長 小林一夫	
従業員数 (当社グループ)	292名(2019年3月末現在) []は前年比増減 研究開発: 86名 [+7] 生産・購買: 75名 [-8] 営業: 103名 [+1] 管理: 28名 [-1]	
主要納入先 (順不同)	防衛省、株式会社日立製作所、株式会社東芝、 三菱電機株式会社、日本電気株式会社、 トヨタ自動車株式会社、株式会社デンソー	



注目の新製品  
(PCR-WE/WE2)  
出荷式  
2018年9月

# 会社紹介

## ● 国内外拠点・関連子会社



# 会社紹介

## 沿革

**1951**  
昭和26年

**株式会社菊水電波設立**  
8月8日、東京都大田区馬込にて  
資本金30万円、役員4名、従業員8名で発足  
主要製品はラジオ用ダイヤル

創業社長 小林 証  
(当時の写真、31歳)

初期のダイヤル

創業時の建物

創業メンバー  
小林正則 (相談役)、小林 証 (創業者)、尾崎栄造 (副社長)  
渡辺正理 (取締役)、一柳敏郎、広崎 隆ら

**1957**  
昭和32年

**ダイヤルから  
測定器メーカー菊水へ**  
許諾商かダイヤルの売上を上回る  
OEMのトランジスタラジオも生産

低周波アキッド発振器  
QRC-39A  
時計用のアキッド方式  
なかなか便利な製品であった

ロングウェーブTRラジオ  
TR-604  
OEM提供していた  
トランジスタラジオ

**1961-62**  
昭和36～37年

**菊水電子工業株式会社**  
各社各業  
専ら電子部品・電子材料の製造  
生産設備の充実

ダイオードコーポレータ 587A  
電子線露光用装置 (ダイオード露光  
装置) 1000型 (1000型) 生産開始  
露光装置の導入により生産性が向上した。

真空管電圧計 PV-107  
一機多用の電子レンジで  
電子レンジの普及に  
貢献した。

型は工場中継機

**1971-74**  
昭和46～49年

**創立20周年  
第一次創業の年**  
名古屋、水戸に営業所開設  
電子計測機の導入

**1966-68**  
昭和41～43年

**第一次創業の年**  
創立10周年  
10周年記念品として、1000型電子レンジ、1000型電子レンジの生産を開始した。

電子レンジの普及に  
貢献した。

電子レンジの普及に  
貢献した。

**1981-82**  
昭和56～57年

**米空軍との大型商談**  
オシロア160台 (23億円)  
オシロア160台 (23億円) 商談  
北米営業所開設

計測器で米軍の一番札  
毎日新聞  
初の  
米軍に納入された計測器

一度で報じる毎日新聞 (1982)

**1985-88**  
昭和60～63年

**オシロスコープCOM3000シリーズ**  
グッドデザイン産業機械部門大賞を受賞  
オランダに「菊水ヨーロッパ」を設立  
英国マルコーニ・インストゥルメンツ社と  
日本総代理店契約締結

計測器業界初の快挙!

グッドデザイン産業機械部門  
大賞を受賞した  
オシロスコープ  
COM3000シリーズ

オシロスコープ COM7000シリーズ  
営業が歩かずとも広告だけで  
どんどん注文が舞い込んだヒット製品

**1989-91**  
平成元～3年

**株式会社店頭公開**  
西東京営業所 開設  
専属物流会社  
クイアールシー株式会社設立

1991年11月  
株主による新株式発行数：75万株  
発行価額：2,330円/1株

1989年6月  
立川市に  
西東京営業所  
開設

株式会社公開の頃の旧本社 (川崎市中原区)  
3年3月期 売上高112億、従業員数386名であった

**2000-01**  
平成12～13年

**ISO14001 認証取得**  
TQC (TQM) 導入による品質改善の  
成果を認められ、ISO14001  
認証取得 (2001年度アフタフライン) 員を完了

2001年売上の4割がグッドデザイン賞を受賞!

**GOOD DESIGN AWARD 2001**

計測器業界初の快挙!











**1995**  
平成7年

**ISO9001 認証取得**  
計測器業界初の快挙!  
品質管理システムをオンライン化

1995年12月22日  
品質マネジメントシステム  
ISO9001 認証を取得  
登録証番号: JQA-1100

# 会社紹介(事業概要)

## ● 事業活動トピックス

		 <中国>  <米国>	
<b>&lt;新製品&gt;</b> ・PATシリーズ(直流)  <ul style="list-style-type: none"> <li>・KHA1000(EMC)</li> <li>・PLZ6000R(回生負荷)</li> <li>・TOS3200(漏洩電流試験器)</li> <li>・PWR、PCR-Mラインアップ追加</li> </ul>	<b>&lt;経営施策&gt;</b> ・創立55周年記念行事	<b>2005</b> ・大連化学物理研(DICP)技術提携	・キクスイ・アメリカ設立(販売拠点)
 <ul style="list-style-type: none"> <li>・PATスマートラック</li> </ul>	・国内営業所統廃合	<b>2006</b> ・菊水貿易(上海)設立(販売拠点)	・グローバル製品上市(PCR-Mシリーズ) 
<ul style="list-style-type: none"> <li>・KHA3000(EMC)</li> <li>・PFX2511(バッテリー充放電試験システム)</li> </ul>	・国内営業所統廃合	<b>2007</b>	 <欧州> ・欧州代理店網再編… ・Electronica 2008出展
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOS5300シリーズ(耐電圧・絶縁抵抗試験器)</li> <li>・Milla-E50(電気自動車(EV)急速充電器)</li> </ul>	・国内営業所統廃合	<b>2008</b>	・欧州代理店網再編… ・Electronica 2008出展
<ul style="list-style-type: none"> <li>・PCR-LEシリーズ(高性能交流電源)</li> <li>・PWXシリーズ(薄型直流電源)</li> </ul>	・創立60周年記念行事	<b>2009</b> ・菊水貿易(上海)の分公司統廃合 ・生産拠点の合理化(菊水電子(蘇州)閉鎖)	・Electronica 2010出展
<ul style="list-style-type: none"> <li>・PCR-LE、PWXラインアップ追加</li> <li>・Milla-E20(電気自動車(EV)急速充電器)</li> </ul> 	・創立60周年記念行事	<b>2010</b>	・Electronica 2010出展
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOS9213AS(太陽光パネル用耐電圧・絶縁抵抗試験器)</li> <li>・PLZ-4W(電子負荷)スマートラックの拡充</li> </ul>	・創立60周年記念行事	<b>2011</b>	・Electronica 2012出展
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOS7210S(PID絶縁試験器)</li> <li>・TOS5200(耐電圧試験器)</li> </ul>	・創立60周年記念行事	<b>2012</b>	・Electronica 2012出展
<ul style="list-style-type: none"> <li>・PMX-Aシリーズ(小型直流電源)</li> </ul> 	・創立60周年記念行事	<b>2013</b> ・深圳分公司設立	・Electronica 2014出展
<ul style="list-style-type: none"> <li>・PLZ-5Wシリーズ(電子負荷)</li> </ul>	・富士勝山事業所にデモルーム開設 ・Webサイト「KIKUSUI mag」開設	<b>2014</b>	・Electronica 2014出展
<ul style="list-style-type: none"> <li>・PWR-01シリーズ(直流電源)</li> </ul>	・富士勝山事業所にデモルーム開設 ・Webサイト「KIKUSUI mag」開設	<b>2015</b>	・Electronica 2016出展 
<ul style="list-style-type: none"> <li>・PLZ-5WHシリーズ(電子負荷)</li> <li>・PCR-WE/WE2シリーズ</li> </ul>	・富士勝山事業所にデモルーム開設 ・Webサイト「KIKUSUI mag」開設	<b>2016</b>	・Electronica 2016出展
・(大容量スマート交流・直流安定化電源)	・富士勝山事業所にデモルーム開設 ・Webサイト「KIKUSUI mag」開設	<b>2017</b> ・ソリューションWEBサイト開設	・ソリューションWEBサイト開設
	・富士勝山事業所にデモルーム開設 ・Webサイト「KIKUSUI mag」開設	<b>2018</b> ・北京分公司設立	・Electronica 2018出展

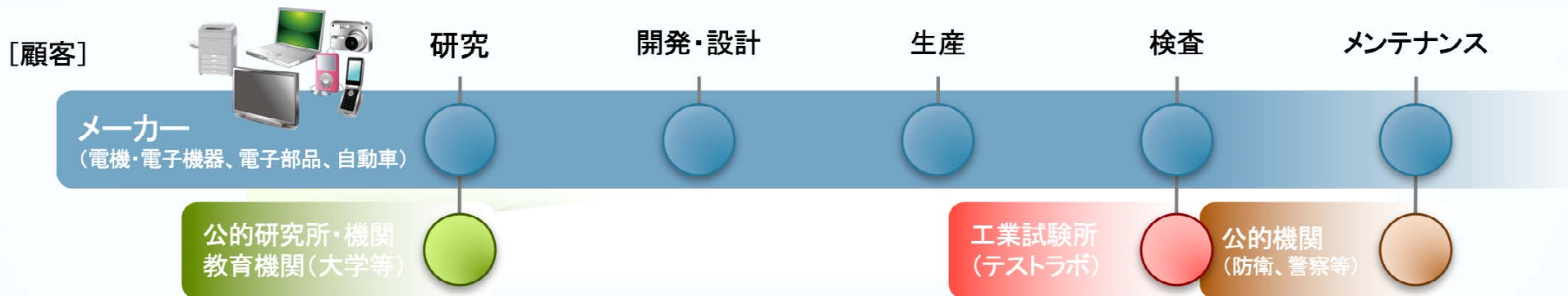
# 会社紹介

## ● ビジネスモデル

当社の独自性

計測技術と電源技術の両方を有していること！

(微小から大電流まで、電気エネルギーを高精度で制御、測定する技術・ノウハウ)



## グローバルに販売展開！

### 電子計測器

電気のモノサシ、産業の「マザーツール」として、家電製品、OA機器、電子製品などの「安全性」や「正確性」の測定・試験に使用されます。近年は、**自動車のノイズ耐性(EMC)**に関する試験、また**EV用バッテリーの絶縁性能試験**の測定需要が高まっています。

耐電圧試験器



EMC試験器



### 電源機器

研究開発や製造工場などで、安定した電力(直流・交流)を供給する設備として使用されます。近年は、**ハイブリッドカー・電気自動車の評価**に必須となる電子負荷装置(電力を消費する装置)、**パワーコンディショナーなどの評価**に必要な**交流電源**の需要が高まっています。

直流電源



交流電源

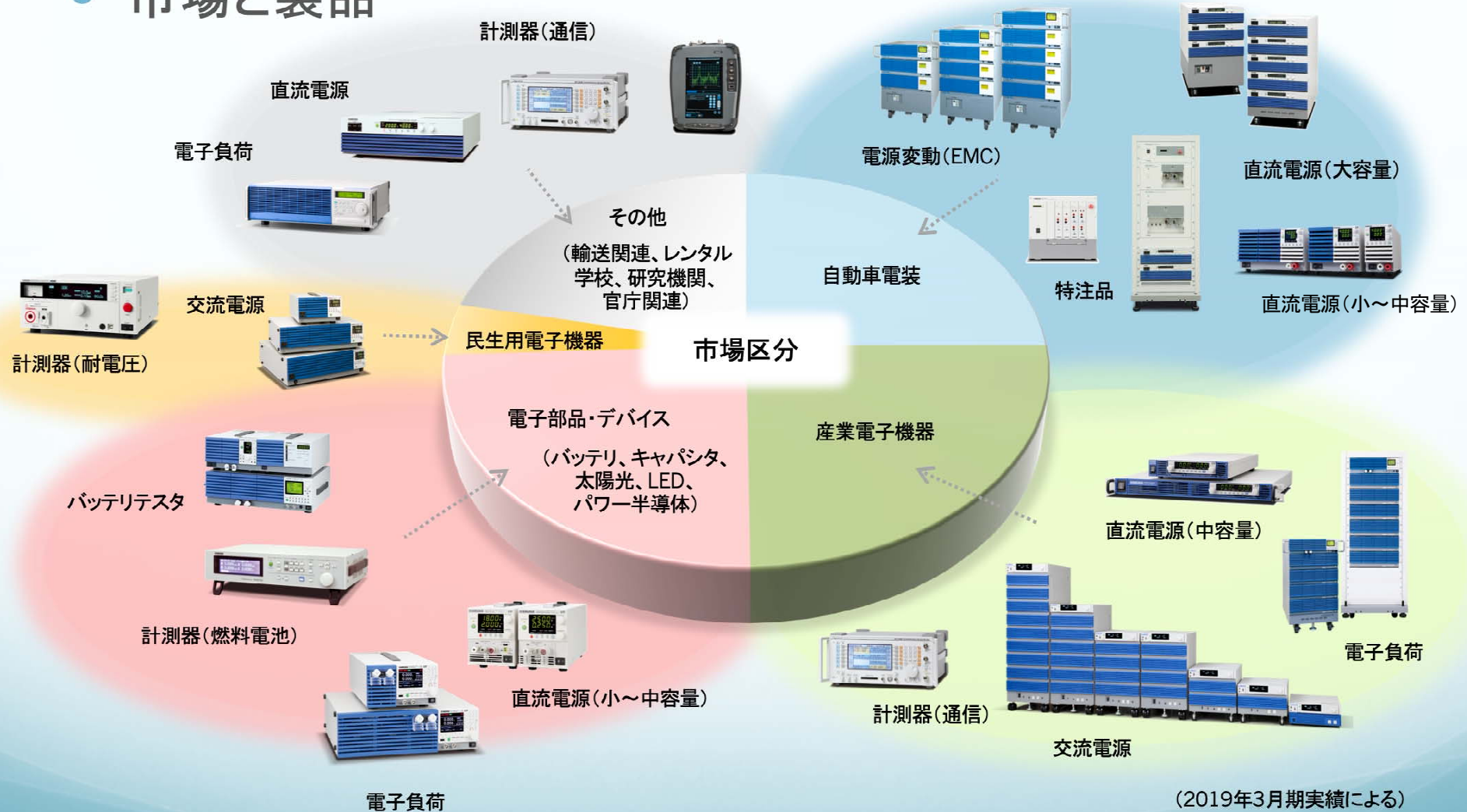


電子負荷



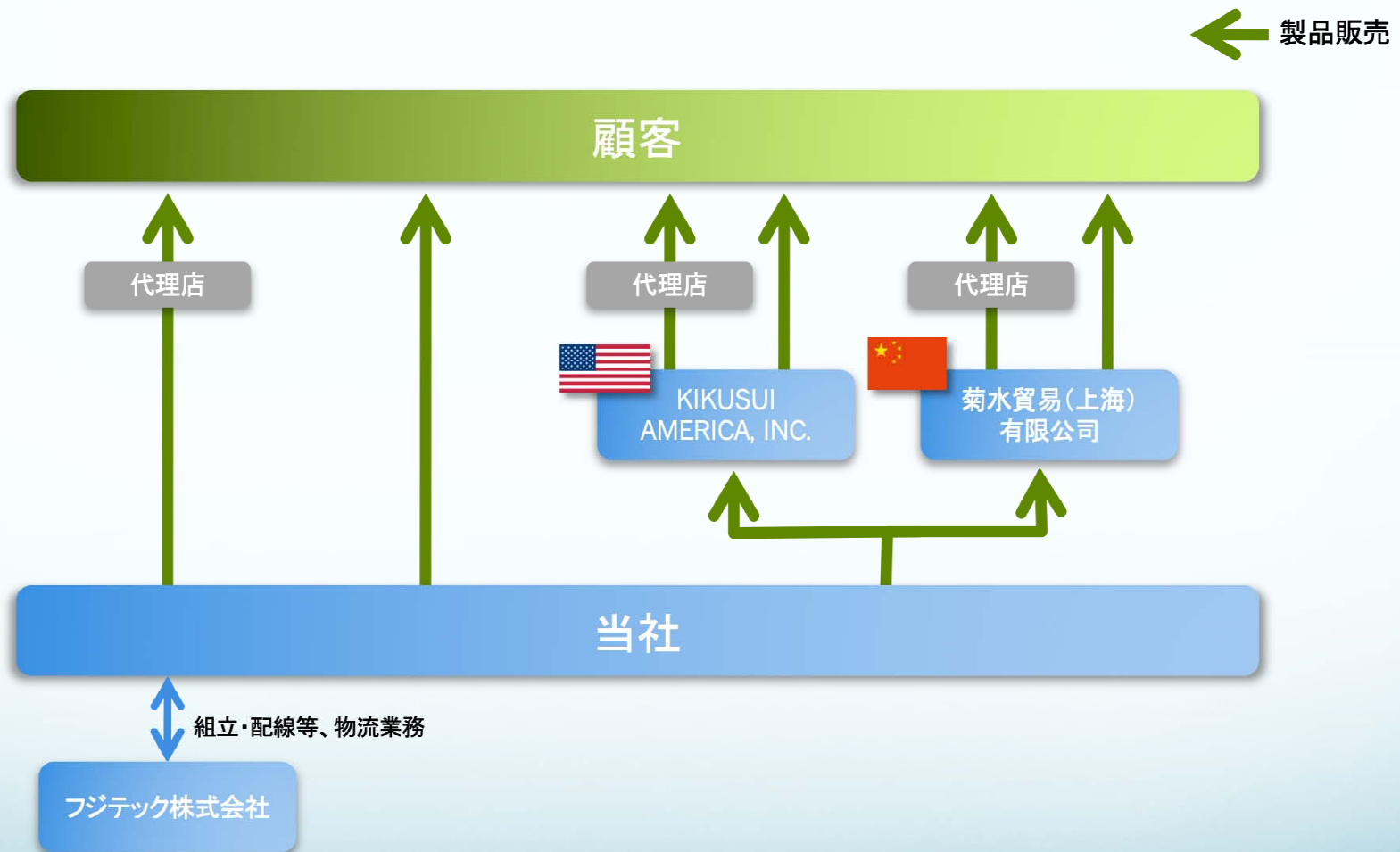
# 会社紹介(事業概要)

## ● 市場と製品



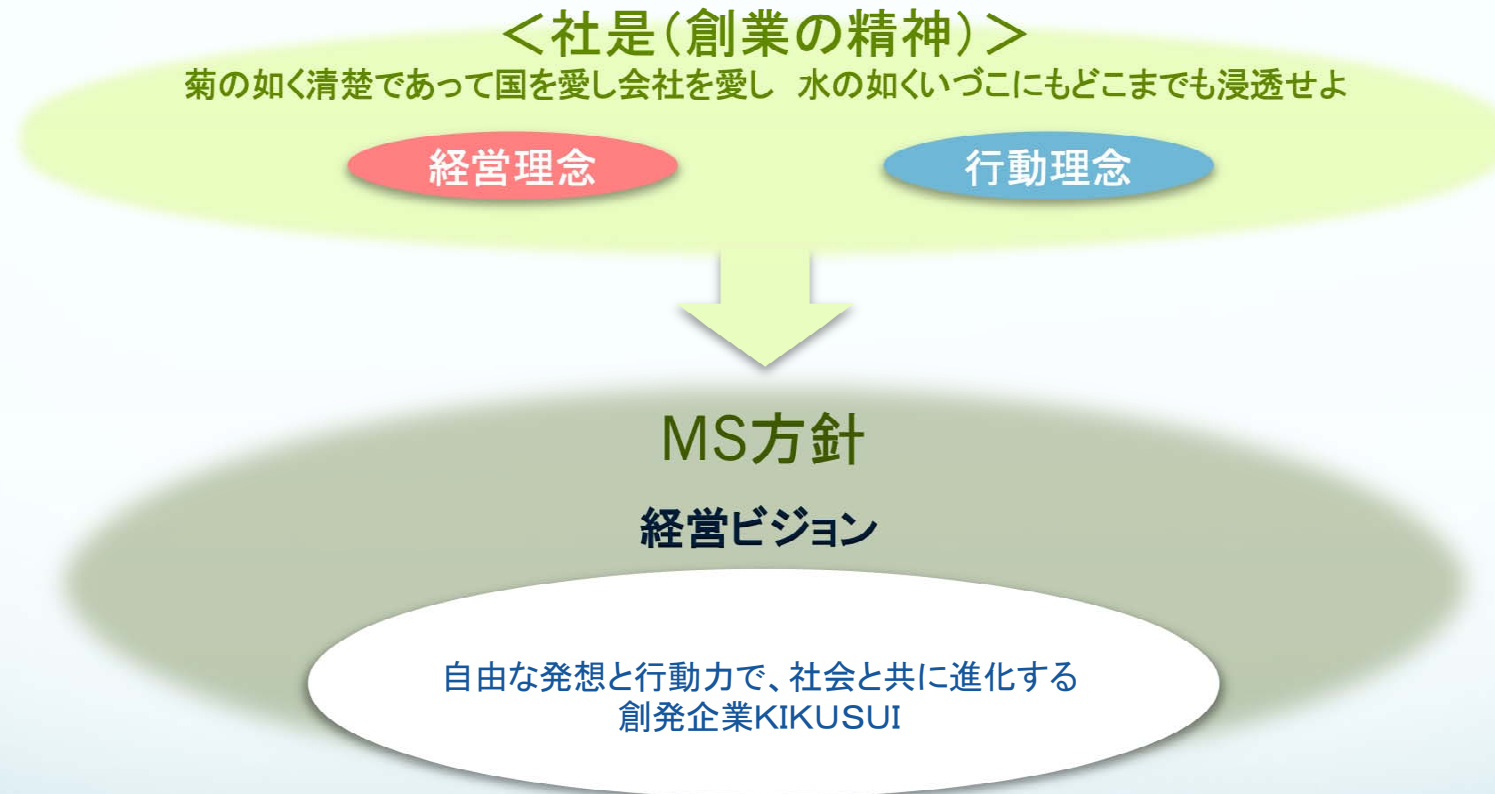
# 会社紹介

- 事業系統図



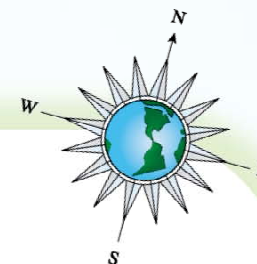
# 会社紹介

- コーポレートステートメント



# 2019年3月期 連結業績概要

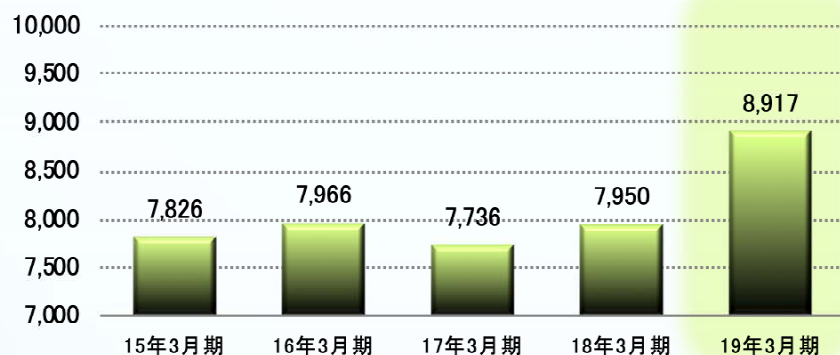
# 2019年3月期 連結業績概要



## ● 決算サマリー

- 売上高・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

売上高



単位: 百万円

経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益



## 経営の概況

当社グループが属する電気計測器業界においては、当社グループの重点市場である次世代自動車関連市場では、EV(電気自動車)や先進安全自動車及びこれらに関わる市場からの電気計測器の需要は増加傾向にありました。また冷凍空調市場では、省エネ対策だけではなくAI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)を活用したシステムの省力化・自動化等高付加価値化への取り組みに対する設備投資は堅調であり、製造業全般では、設備投資の動きは緩やかに回復しております。

このような状況の中、当社グループは、米中貿易摩擦の影響があったものの、次世代自動車関連市場、環境・エネルギー関連市場及び冷凍空調市場を中心に顧客ニーズに合わせたシステム提案営業を積極的に展開し、また、販路開拓活動と研究開発活動を行うと共に、原価低減と経費節減にも努力を重ねてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、新製品の投入効果や特に第4四半期に汎用性の高い直流電源、交流電源や安全関連試験機器等の売上が伸びたことにより、89億1千7百万円(前年同期比12.2%増)となりました。

損益面におきましては、売上高の増加により、営業利益6億9千6百万円(前年同期比44.6%増)、経常利益7億1百万円(前年同期比43.8%増)となり、また、当社製品の無償保証修理に伴う製品保証引当金繰入額の特別損失への計上、及び法人税等調整額1億6千1百万円を計上いたしましたが、親会社株主に帰属する当期純利益は4億4千3百万円(前年同期比31.0%増)となりました。

# 2019年3月期 連結業績概要

## ● 損益計算書

	18年/3月期		19年/3月期		前年同期比	
	金額(百万円)	対売上構成比(%)	金額(百万円)	対売上構成比(%)	増減額(百万円)	増減率(%)
売上高	7,950		8,917		966	12.2
売上原価	3,821	48.1	4,270	47.9	449	11.8
売上総利益	4,129	51.9	4,646	52.1	517	12.5
販売費及び一般管理費	3,647	45.9	3,950	44.3	302	8.3
営業利益	481	6.1	696	7.8	214	44.6
営業外収益	47	0.6	58	0.7	10	22.6
営業外費用	41	0.5	53	0.6	12	29.2
経常利益	487	6.1	701	7.9	213	43.8
特別利益	3	0.0	—	—	△3	—
特別損失	23	0.3	26	0.3	2	11.7
税金等調整前当期純利益	468	5.9	675	7.6	207	44.3
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額	128	1.6	227	2.6	99	77.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	338	4.3	443	5.0	104	31.0
1株当たり当期純利益	40.59円		53.52円			

※単位未満の金額は切捨て、百分率は四捨五入。

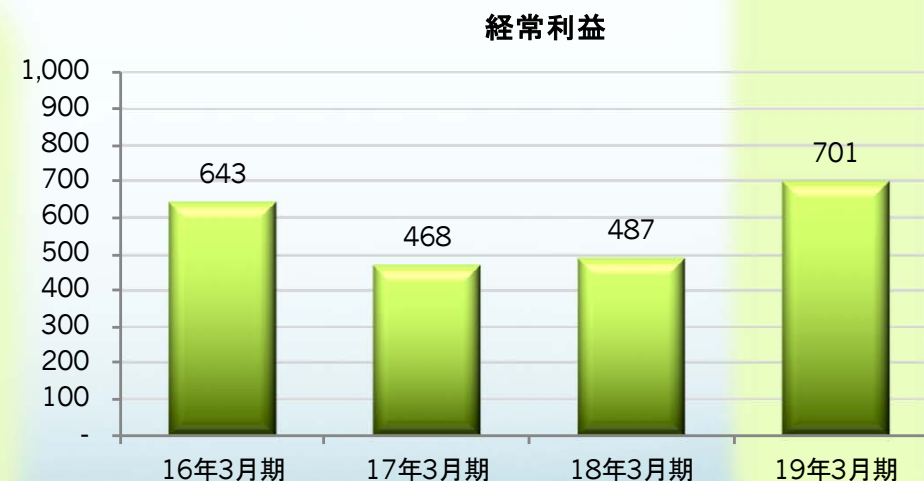
# 2019年3月期 連結業績概要

## ● 売上高と経常利益

- 売上高: 8,917百万円  
【前年同期 7,950百万円】 **+12.2%**
- 経常利益: 701百万円  
【前年同期 487百万円】 **+43.8%**
- 親会社株主に帰属する  
当期純利益: 443百万円  
【前年同期 338百万円】 **+31.0%**



単位: 百万円



### Point



次世代自動車関連市場、環境・エネルギー関連市場及び冷凍空調市場を中心に顧客ニーズに合わせたシステム提案営業を積極的に展開し、また、販路開拓活動と研究開発活動を行うと共に、原価低減と経費節減にも努力を重ねてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、新製品の投入効果や特に第4四半期に汎用性の高い直流電源、交流電源や安全関連試験機器等の売上が伸びたことにより、89億1千7百万円(前年同期比12.2%増)となりました。

損益面におきましては、売上高の増加により、営業利益6億9千6百万円(前年同期比44.6%増)、経常利益7億1百万円(前年同期比43.8%増)となり、また、当社製品の無償保証修理に伴う製品保証引当金繰入額の特別損失への計上、及び法人税等調整額1億6千1百万円を計上いたしましたが、親会社株主に帰属する当期純利益は4億4千3百万円(前年同期比31.0%増)となりました。

# 2019年3月期 連結業績概要

## ● 製品群別売上概況

- **電子計測器**: 2,020百万円  
【前年同期 1,650 百万円】 **+22.4%**
- **電源機器**: 6,559百万円  
【前年同期 5,995 百万円】 **+9.4%**
- **その他**: 337百万円  
【前年同期 304百万円】 **+10.6%**

### Point



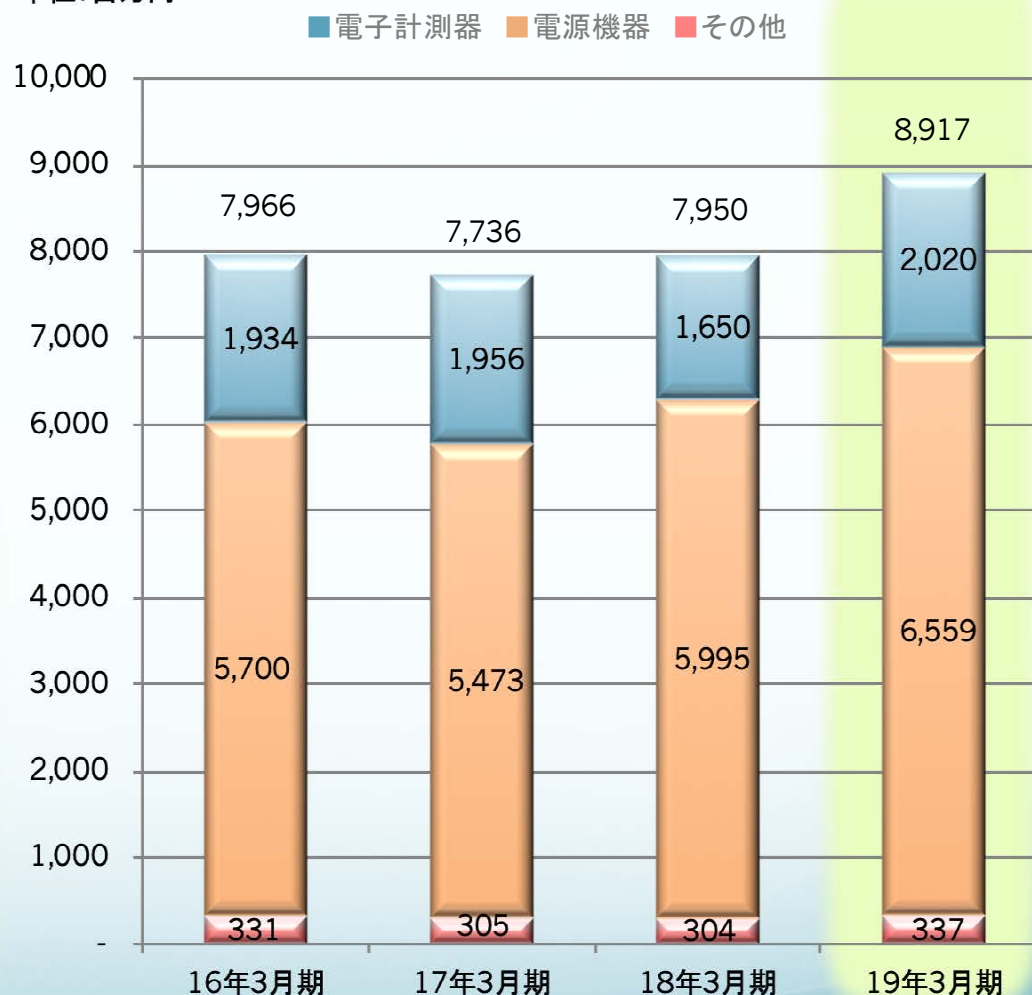
#### ＜電子計測器群＞

前期低調だった航空機用電子機器の測定器が好調に推移いたしました。また、安全関連試験機器は、耐電圧・絶縁抵抗試験用として車載関連市場においては好調に推移し、家電関連市場においても動きがありました。

#### ＜電源機器群＞

直流電源は、次世代自動車関連市場への試験用供給電源として、また、半導体関連市場への装置駆動用電源として好調に推移いたしました。交流電源は、小型大容量の新製品であるPCR-WE/WE2の販売効果もあり、車載関連市場や冷凍空調市場への評価試験や製造設備用として好調に推移いたしました。電子負荷装置は、車載関連市場及びエネルギー関連市場への評価試験用として高電圧大容量の新製品PLZ-5WHを中心に好調に推移いたしました。また、車載電池用充電システム等特注製品に動きがありました。

単位: 百万円



# 2019年3月期 連結業績概要

## ● 製品群別売上高構成比

- 電子計測器: 22.7%  
【前年同期 20.8%】 **+1.9%**
- 電源機器: 73.5%  
【前年同期 75.4%】 **△1.9%**
- その他: 3.8%  
【前年同期 3.8%】 **±0.0%**

### Point

電源機器の落ち込み及び電子計測器の増加により、電子計測器の構成比率が上昇しました。



■ 電子計測器  
■ 電源機器  
■ その他

単位: %



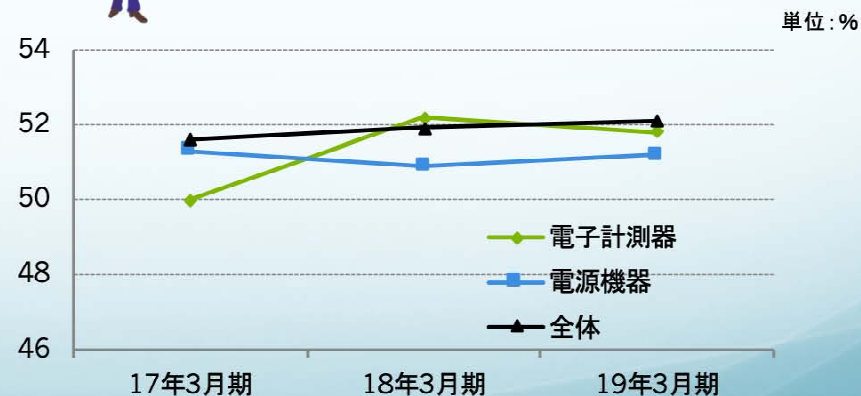
## ● 製品群別売上総利益率

- 電子計測器: 51.8%  
【前年同期 52.2%】 **△0.4%**
- 電源機器: 51.2%  
【前年同期 50.9%】 **+0.3%**

**売上総利益率: 52.1%**  
【前年同期 51.9%】 **+0.2%**

### Point

原価低減の効果により若干改善されました。



単位: %

# 2019年3月期 連結業績概要

## ● 海外売上高

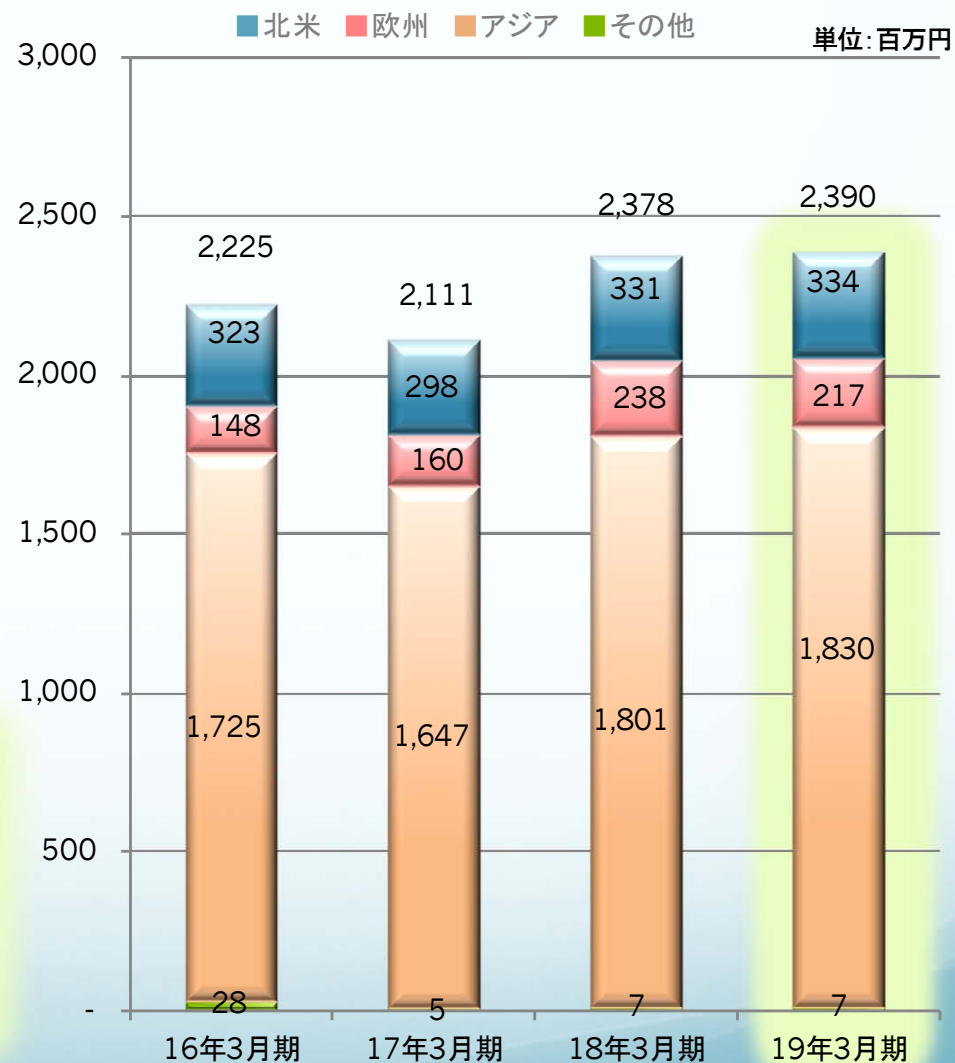
- **北米: 334百万円**  
【前年同期 331百万円】 **+1.0%**
- **欧州: 217百万円**  
【前年同期 238百万円】 **△8.5%**
- **アジア: 1,830百万円**  
【前年同期 1,801百万円】 **+1.6%**
- **その他の地域: 7百万円**  
【前年同期 7百万円】 **+1.4%**

**海外販売高合計: 2,390百万円**  
【前年同期 2,378百万円】 **+0.5%**

### Point



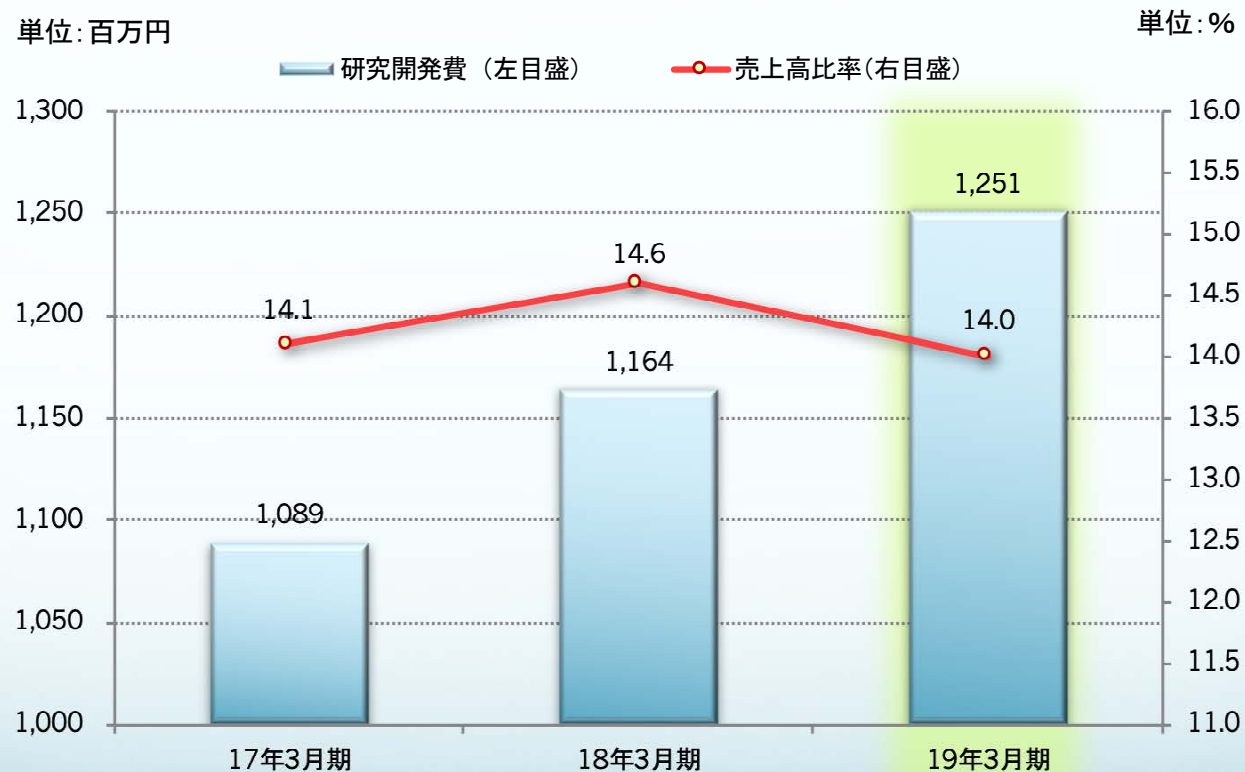
米国では、IT関連市場や宇宙産業市場への直流電源が好調に推移いたしました。欧州では、車載関連市場や電子部品市場向けの直流電源や電子負荷装置に動きが見られました。  
アジアにおいては、中国では、米中貿易摩擦の影響があったものの、EV用電池市場への安全関連試験機器や車載関連市場向けの直流電源が好調に推移いたしました。韓国では、車載関連市場への交流電源や電子負荷装置、また、東南アジアでは日系企業を中心に家電関連市場や電子部品関連市場への安全関連試験機器や直流電源にそれぞれ動きが見られました。



# 2019年3月期 連結業績概要

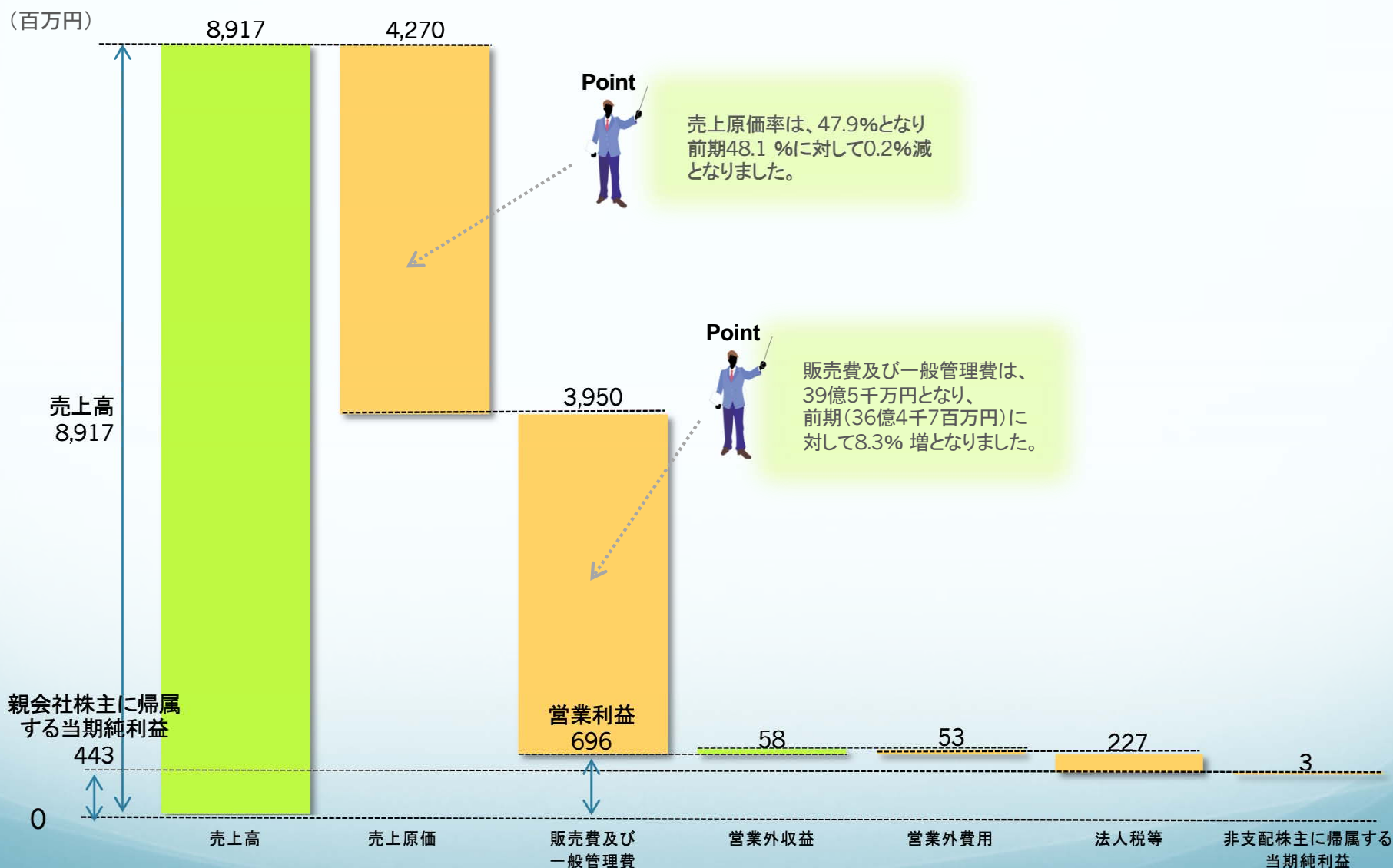
## ● 研究開発投資 (対売上高比率)

- 1,251百万円 (14.0%)  
【前年同期 1,164百万円 (14.6%)】



# 2019年3月期 連結業績概要

## ● 損益の概況



# 2019年3月期 連結業績概要

## ● 貸借対照表

単位:百万円

【資産の部】	18/3期	19/3期	増減
流動資産合計	6,819	6,927	108
固定資産合計	4,786	4,832	45
<b>資産合計</b>	<b>11,605</b>	<b>11,759</b>	<b>153</b>
【負債の部】	18/3期	19/3期	増減
流動負債合計	1,572	1,705	132
固定負債合計	577	649	72
<b>負債合計</b>	<b>2,149</b>	<b>2,354</b>	<b>204</b>
【資本の部】	18/3期	19/3期	増減
資本金	2,201	2,201	0
資本・利益剰余金	7,245	7,518	272
自己株式	△750	△820	△70
その他の包括利益累計額合計	720	505	△214
非支配株主持分	38	—	△38
<b>純資産合計</b>	<b>9,455</b>	<b>9,404</b>	<b>△50</b>

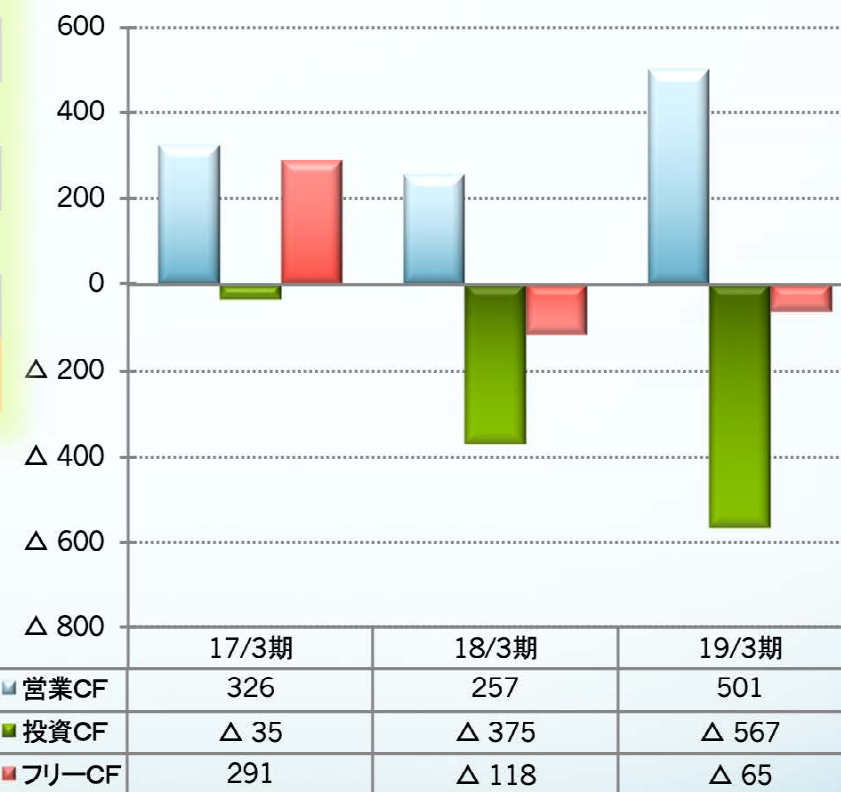
# 2019年3月期 連結業績概要

## ● キャッシュ・フロー

【CF計算書】 単位:百万円      17年/3月期   18年/3月期   19年/3月期

営業活動によるキャッシュ・フロー	326	257	501
投資活動によるキャッシュ・フロー	△35	△375	△567
財務活動によるキャッシュ・フロー	△235	△218	△255
現金及び現金同等物の増減額	47	△334	△326
現金及び現金同等物の期首残高	2,819	2,867	2,533
現金及び現金同等物の期末残高	2,867	2,533	2,206

単位:百万円



### Point



営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の計上等による資金の増加が、たな卸資産の増加等による資金の減少を上回り、5億1百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等により、△5億6千7百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得及び配当金の支払い等により、△2億5千5百万円となりました。

現金及び現金同等物は、前連結会計年度の期末残高に比べ、3億2千6百万円減少し、22億6百万円となりました。

# 2020年3月期 連結業績予想

# 2020年3月期 連結業績予想

	19年/3月期	20年/3月期		
	当期実績(百万円)	通期予想(百万円)	前期比増減額(百万円)	前期比増減率(%)
売上高	8,917	9,000	83	0.9
営業利益	696	700	4	0.5
経常利益	701	710	9	1.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	443	460	17	3.7

	19年/3月期	20年/3月期		
	当期実績(円)	通期予想(円)	前期比増減額(円)	前期比増減率(%)
1株当たり 配当金	23.00	23.00	0	0.0

# 今後の事業戦略

# 今後の事業戦略

## 次世代自動車分野に注力



米国、アジアを中心に海外市場拡販を強化！

# 本資料における注意事項

本資料は、2019年3月期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2019年5月14日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、又は約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。

[本資料および当社IRに関するお問い合わせ先]

菊水電子工業株式会社 総務部 IR担当

TEL: 045(482)6912 E-mail: [ir@kikusui.co.jp](mailto:ir@kikusui.co.jp) URL: <http://www.kikusui.co.jp/>